青年はどう考えているか

◇ 求める青年の姿 ◇

先般、向日町青年団員一七四名について、生活の実態調査を行いました。その主な項目は①教養について、どのような、関心と時間をもっているか②自己に対してどのような、自信、幸福感、悩みをもっているか。③余暇をどのようにもっているか、またそれをどのように利用しているか。④青年学級に対してどのような希望をもっているか。⑤友だちに対する考え方や、現在の交友関係について。⑥親に対してどんな考えや、気持をもっているか。⑦近隣や部落の風習についてどのように考えているか。⑧自己の悩みや不満についてなど八つの観点について、二五項目の質問をいたしました。そのいくつかの回答をここに抄録しております。

（教委事務局）

自分にまだ自信がもてない

「あなたは、自分をふりかえってみて、自分自身をつまらない人間だと思うことがありますか」の問に対して「たびたびある」というのが三三%で、全体の三分の一をしめています。青年が自分の生活（自分の現在）に安定感を持っていないということは、考えさされる問題です。これから自分の生活を方向づけ、希望をもって出発しなければならないこの世代に、温かい理解の手と激励をそして援助を与えることが、どんなに大切なことでしょうか。

つぎに「あなたは現在の自分を幸せに思っていますか」に対しては「幸せに思うときもあり、思わないこともある」が七四%で大部分をしめており、大きな問題はないが、もう少し「幸福に思っている」といえる人々があってもよいのではないでしょうか。この点は、家庭はまだ多くの問題があるということをあいまいに物語っているといえます。しかも「いつも幸せに思うことはない」という、幸せに思うことはないのが一〇%あることは、もう少し青年の気持をほりさげて、考えてみなければならない重要な問題だといえます。青年に明るさと希望を―これは、とりわけ大切な、親の反省の課題といえましょう。

家庭の円満を願っている

「あなたは、くらしを考えてみて次にあげるどれが一ばんあなたの気持に近いものですか」の問に、一ばん多いのは「家庭のものが助けあって、円満にくらしていきたい」で三七%をしめています。つぎに「お金のことばかり考えないで、自分の趣味にあった生活をしたい」が二四%「よく働いて、くらしを豊かにしたい」が一七%、となっています。ここにも青年たちは自分の幸福のある生活をつよく求めているのです。働くだけでなく、心の生活の豊かさをきずいていきたいのです。

ついで「あなたは、どんなことが一ばん幸福だと思いますか」の項では「家庭が円満であること」というのが最も多く、三四%「自分のしごと（学習）に一心に努力すること」が二二%、よい友だちをもつこと」が一七%「もっと経済的にゆとりがあること」はわずかに一一%となっています。これをみても、どんなに家庭の円満を願っていることの多いことでしょうか。

また青年が「自分を大切にする」という考えをもっていることは、「自分のしごとに努力する」という考えにもよく表われています。しごとに努力すること、趣味を生かした生活を育てていくことで」が二四%で四分の一にも達していますが、自己自身の問題についての悩みは、青年にとっての一つの特徴で、おとなもまた深かい理解をもってやることが大切なことです。

親との考えのずれに悩んでいる

「あなたは、どんなことに悩んだり困ったりしていますか」に対して「家の仕事や自分の仕事に関することで」が三二%「親や祖父母との関係について」が二四%で、自己自身の問題についての悩みは、青年にとっての一つの特徴で、おとなもまた深かい理解をもってやることが大切なことです。

親との関係について、さらに追求してみると「あなたは、どんなことについて、親とうちとけて話合いたいと思いますか」に対して、「仕事や家業の工夫改良について」が一七%、「自分の思想や考えについて」が一六%で、自分の考えを親と話し合うことが望まれています。親と子は考えの相違がかなりあるものです。しかし家のことについても、子どもの問題についても、よく話合うことから、その立場や考え方を理解しあい、納得してやっていくことが大切なことです。それを青年たちは求めているのです。

「親のいうことだから」といって、子どもにおしつけることは、青年にとっていやなことです。しかし、まだまだ親の権威をふるまって、従わせるようなことがないとはいえないようです。

「あなたは、親の考えやいわれることで、不満に思うことがあったとき、どのような態度をとりますか」の問に対して、「自分の考えをいって、考えなおしてもらう」というのが四六%で多くは話合いたい、と願っています。けれども、その場合の解決は、親と子のふだんの関係から、かなり問題をもったなりゆきになることも多いものです。「自分の思うとおりする」二四%、「おこって反抗する」一四%、「いってもだめだから、ほっておく」一〇%、青年の気持を単的に物語ったもので、話合う雰囲気のない家庭では、親子関係が何かにつけて、こじれていくことが多いものです。しかも青年は、親との考えのずれに悩んでいることは、大きな問題といわねばなりません。

話合う友人を求めている

「あなたは、どんな友だちがほしいと思いますか」に対して「身の上のことを相談できる友だちがほしい」が四二%、「一しょに遊ぶ（話合う）友だちがほしい」二二%、青年たちはなんといってもよい友だちがほしいのです。ある場合は友だちにこそ、何んでもうちあけて相談するのです。親にもいえない、ということは問題といえますが、しかし親にもいえないことを、友だちに話して解決を求めることはかなり多いようです。交友関係は青年の生活にとって、このように大きな位置を占めていることを重視したいものです。

近隣の風習にあきたりない

「あなたは、近所や部落の人たちのことで、よくないと思うことや困っていることがありますか」に対して、「つまらないうわさをよくいいはやす」四四%、「つきあいの上で、むだな費用をよく使う」一六%の答がでているのは、よく考えてみなければならない、おとなの問題でもあるようです。

「あなたは、近所や部落の風習でこれでよいだろうかと思うことがありますか。それをどうして、解決したらよいと思いますか」の問に対しては「みんな話合って改善するようにしたい」が七四%をしめており、「そのような問題はなにもない。現状でよい」は僅かに八%です。さすがに、部落の風習の問題は、青年たちの胸にもひびいており、その改善についての意欲は大きいようです。

青年は「自分で」考えている

青年の声はこのように単的に表られています。青年は自分のいぶきを青年の中で求めています。この調査はそのいくつかの実態を語っているといってよいと思います。

新しい婦人会の在り方

宇佐川　満

婦人会研修会で、深かい感銘を与えられた、宇佐川先生の講演の要旨です。抄録の文責は私（野村主事）にあることをおことわりいたします。

世相が移り、各人の生活態度も変ってきている今日「婦人会の在り方」も当然新らしく考えなければならない時になっています。

従来の婦人会は、いうまでもなくそれぞれの目標をもって、有意義な活動を続けてきましたが、それは多く組織的な体系の中での、大集団の活動であったということがいえましょう。よくいわれることですが、ピラミッド型の体系の中で、上層部の幹部の活動が殆んどで、会員のひとりひとりが置んぜられる、会員のための活動は充分であったとはいえないのです。事業をみても、奉仕的な活動が多く、会員の教養を向上させるための学習の機会は、あまりとり上げられていなかったようです。

今後の婦人会の運営が、上下の関係によるピラミッド型の活動でなく、会員ひとりひとりの横の結びつきを拡げていくことが必要です。しかし、現在では従来の婦人会のしきたりが会員の胸にしみついています。よろいものでしばられています。この自覚をぬけ出すことは容易なことではないでしょう。けれども行事をきめるのは、従来のしきたりや他からの要求できめるのではないはずです。会員のひとりひとりの幸福を願って、自分たちの問題をとりあげていく、会員のための行事であることが本質的に大切なのです。

従って今後の婦人会の活動では、第一の課題は「考える」ということです。会員のひとりひとりを、どのようにして大じにするかということにあるのです。それは多くの人を集めてする行事ではできないことです。少くとも三十人以下をグループとしたまとまりで、ひとりひとりが交流しあえる雰囲気で、問題を意識したグループ活動をすることによって、できることなのです。このような小集団でとりあげられる学習課題は、それこそ自分の身のまわりの切実な問題であり、生き生きとして婦人決に直面することのできる「自分の問題」なのです。婦人会活動は自分たちの生活をとおして、大集団につながる関係を忘れてはなりません。

婦人会の活動は、大集団としてのお祭り活動では、外面的な事業をかざるだけです。それも時に必要ではあります。しかしそれを年に何回かやる式では、個人個人が高まっていく内面的な、それこそほんとうに大切なひとりひとりの向上革新はできません。もっと小さい集団の機会をつくって、話し合ったり、お話をきいたりする学習活動が必要なのです。

小集団活動はお互が横につながって、手をとり合って、ひとりひとりの個人が幸福になっていくための相互学習活動をいうのです。ここには上からきめた方式で動くのでもなく、他から要求されて動くおきり立てでもありません。自分たちで、もっとためになる、もっと楽しい、積極的な活動がきる自由な集団、小さいグループの集りの学習活動なのです。

このような小集団形式の学習活動は、さまざまの方法を目由にとりいれます。ただ講師のお話をきくというだけでなく、問題をとりあげてみんなで話し合う、それを作文にかいてみる、ラジオやテープを一緒にきく、映画を見学したりして話合う、読書の話合いもする、助言者があって指導がうけられるならば、一層学習効果をあげることができます。きく、話す、読む、見るといった全身で活動する、しかもグループ学習であるところに、小集団活動の大切な意味があります。それぞれの地域で近隣の会員たちが呼びあってつくるのもよく、また、おなじ悩みや希望をもつあう人たちが寄り合うのもよいでしょう。しかし小集団活動はけっして個立するのではなく、婦人会という、大きな母集団とつながっていくこともまた大へん大切なことです。

婦人会はどこまでも、団体として社会の良心的な存在です。婦人会のほんとうの声は、もっともっと社会に必要です。しかしそれには、会員のひとりひとりが知恵と教養をみがいて「考える」態度を学ばなければなりません。こうしてはじめて婦人会の新らしい第二の誕生が、期待されると思います。

大阪学芸大学助教授

婦人会誌　原稿募集

向日町婦人会

題目「自由題」

要項

①、原稿　四百字詰一枚半六百字以内

②、締切日　三月十日

③、届先　各支部長まで

農協だより

貯金で楽しい温泉へ

南紀勝浦への旅行案内

麦作の御注意

今度向日町農協では、南紀勝浦の旅行を実施します。本州南のさいはて黒汐洗う常春の別天地南紀勝浦へ親睦をかねて旅行をすることになりましたから、組合員のみなさん、こぞって御参加下さい。

◇日　時◇　二月二十五日夜出発の予定

◇コース◇　向日町―天王寺（車中一泊）―那智山―新宮―勝浦（一泊）

帰り、勝浦―天王寺―向日町（二十七日午後十時頃帰町の予定）

◇費　用◇　一人当三、二〇〇円（二十六日の朝食は持参の事）

◇旅費払込方法◇　定期預金　六万円　一年定期

※当組期の時三六〇円の利息を御支払致します。

一　時　掛　三、三〇〇円

月掛の方法　第一回（申込と同時）一、四五〇円第二回以降毎月五〇〇円、四回をもって充当する。

◇締　切◇　二月二十二日中、部落農協事務所又は事務所直接のこと。

農事しおり

暖冬に於ける麦の肥培管理について

今年の一月―二月の気温は二―三度高く且つ降雨量も多い。いわゆる暖冬の年である。

麦の出穂も著しく徒長し、倒伏けつもせず手入れの不充分な所では穂数が少く収量も悪い結果になるので、次の様な点に注意して肥培管理をして頂きたい。

一、中耕は降雨が多いため、湿潤な期間が多く、乾燥期に早い目に充分中耕する必要がある。麦の根は土壌中の酸素が欠乏するとその機能が衰えて株全体の生育が悪くなるので、固まりやすい土壌や排水の悪い所では特に中耕の効果が著しい。

二、土入れの効果は麦の根際を保護して寒害及び乾燥から守り充分な分けつの発生と麦の強健化を助け特に厚播きすぎた様な場合には株の密度を調節して、健全化を図ることが出来る、土入れの厚さは四―五分程度がよい。

三、麦踏みの効果は、本年の様暖冬の時には麦の徒長を防ぎ根の発育を良くし、分けつを増し、倒の早立を防いで耐倒性を良くするので土の乾燥している日に行う。但し土のしめった所はかえって等ある。

四、追肥の量は基肥に施用した及び回数並びに土壌の性質品種により加減する必要がある。

特に注意して頂きたいのは、肥の時期（最後の追肥）で往々して遅く止肥を施用しておられる場合が多くあります。

麦の収量品質等により、この期は穂の出る四十日前に当る三上旬、中旬（穂肥が一―二ミリ頃）に施す様にされたい。

止肥がおそくなると収穫期をそくし、又倒伏する原因である。

（向日町農協より）

今年ちょうど十二才になる唯男君は、お父さんが京都に転勤になったので、この向日町の借屋という住宅地に転居して来た、京都市を全ぼうできる絶景の地で西山一帯が竹林で筍の名産地だと、だれかに聞いた。お父さんは農業関係の学校を卒業しているので筍について大変くわしく話をしてくれた。

唯男「僕こんな大きな竹見たことがない」

父「これは孟宗竹という竹で寒になるとおいしい筍がたくさん出るんだよ」

唯男「筍は竹の子だから、ほっておいても出るのでしょう」

父「この辺の農家では孟宗畑といって筍を作る畑として肥料をやったりワラをやったりして非常に大切に手入れをしておいしい大きな筍をとるのだよ」

唯男「お父さん向日町ではどれ位孟宗畑があるのですか」

父「大体五五〇反歩位あるのでしょう」

唯男「年にどれ位の筍がとれるの」

父「反当りにして大体三〇〇貫位で十一万貫、これを京阪神の市場に出荷売上げは八百八十万円位の収入になっているんだよ」

唯男「竹にはどんな種類があるのですか」

父「種類は沢山あるのだが、この辺で作られているものは主として孟宗竹で竹材に使われる「はた竹や、ま竹、きっこう竹、黒竹、もん竹」などがあって主に装飾用にもちいられているのだよ」

※期間中消防団員が「かまど、えんとつ、ガスふろば」など点検のときは御協力願います。

自　3月6日
至　3月7日　一般火災の予防
至　3月13日

全国で
のおき
昭和29年
30年
29年
30年
31年

原因は
の不注
とんど